

NISHIHYOGO SHINKIN BANK 2020

●金庫の概要	1
●営業地区	1
●ごあいさつ	2
●経営理念	3
●行動規範	3
●主な業務の内容	3
●西兵庫信用金庫と地域社会	4
●地域密着型金融に関する取組状況	4
●金融仲介機能のベンチマークについて	6
●トピックス	7
●地域社会への貢献活動	8
地域貢献	
地域創生	
一般財団法人「 にしん 地域振興財団」	
●総代会制度	9
●令和元年度の事業概況	11
預金積金	
貸出金	
損益	
●自己資本の充実の状況	11
●リスク管理債権及び金融再生法開示債権の状況等	12
リスク管理債権の引当・保全状況	
金融再生法開示債権及び同債権に対する保全状況	
●お客さま本位の業務運営に関する取組方針	13
●内部統制システムに関する基本方針	13
●統合的リスク管理の体制	14
信用リスク管理	
市場リスク管理	
流動性リスク管理	
事務リスク管理	
システム・リスク管理	
●コンプライアンス(法令等遵守)の態勢	15
●反社会的勢力に対する基本方針	15
●個人情報保護宣言(プライバシーポリシー)	15
●金融商品に係る勧誘方針	16
●保険募集指針	17
●共済募集指針	17
●利益相反管理方針の概要	18
●金融円滑化に向けた取組み	18
●金融ADR制度への対応	18
●貸借対照表、損益計算書及び剰余金処分計算書	19
貸借対照表注記	
損益計算書注記	
会計監査	
財務諸表の正確性に係る内部監査の有効性の確認	

●預金に関する指標	25
預金積金及び譲渡性預金平均残高	
預金科目別残高	
預金者別残高	
定期預金残高	
●貸出金に関する指標	25
貸出金平均残高	
貸出金利種別残高	
貸出金使途別残高	
貸出金の担保別内訳	
債務保証見返の担保別内訳	
貸出金業種別内訳	
貸出金償却	
貸倒引当金内訳	
●有価証券等に関する指標	27
商品有価証券の種類別の平均残高	
有価証券平均残高	
有価証券の残存期間別残高	
有価証券の時価情報	
運用目的の金銭の信託・その他の金銭の信託	
満期保有目的の金銭の信託	
デリバティブ取引	
●主要な業務の状況を示す指標	29
資金運用収支の内訳	
受取利息・支払利息の増減	
業務粗利益・業務純益	
諸比率・諸利回	
●自己資本比率規制の第3の柱(市場規律)に基づく開示	30
●役職員の報酬体系の開示	40
●商品・サービスのご案内	41
●手数料一覧表	43
● にしん のあゆみ	44
●組織の概要	45
役員一覧	
●子会社等の状況	45
●事務所の名称及び所在地	46
営業地区・店舗網	
店舗一覧	
店外ATMコーナー	

金庫の概要

■創業	昭和23年8月15日
■所在地	兵庫県宍粟市山崎町山崎190番地
■電話番号	0790-62-7701(代表)
■出資金	969,185千円
■会員数	25,982名
■店舗数	26店舗
■店外ATM	11カ所
■常勤従業員数	347名
■預金量	473,289百万円
■融資量	208,878百万円

(令和2年3月31日現在)

営業地区

宍粟市、佐用郡佐用町、揖保郡太子町、たつの市、姫路市、相生市、高砂市、加古川市、神崎郡のうち福崎町、赤穂郡上郡町、赤穂市、加古郡播磨町・稲美町、明石市、神戸市のうち西区

(令和2年3月31日現在)



地域で最も信用、信頼される 金融機関をめざして



■ ごあいさつ

平素は、西兵庫信用金庫に格別のお引き立てを賜り心より厚くお礼申し上げます。本年も皆様がより一層**にっしん**についてご理解いただくことを願い、当金庫の経営理念、業績、経営内容等をまとめた「西兵庫信用金庫の現況2020」を作成いたしました。ご高覧頂きますようお願い申し上げます。

さて、令和元年度の我が国経済は、全体としては緩やかな回復基調が続き、大企業を中心に収益も高い水準にあるものの、米中貿易摩擦の長期化等から、製造業や輸出関連企業を中心に景況感は悪化しました。また、企業の人手不足感がさらに高まっているほか、台風等大規模災害による影響や、10月からの消費増税の影響、中国経済の減速懸念、ブレグジットの行方など、先行き不透明な状況が続きました。

金融行政では、決済法制の横断化と地域銀行の再編特例措置の法整備を本格化させるとともに、地域金融機関の金融仲介機能高度化に向け、幅広いビジネスモデルが検討できるよう、規制緩和と環境整備が進められました。

このような情勢下、昨年度は3カ年計画「**にっしん**中期経営計画2018（地域と共に成長する金融機関を目指して）」の中間年度として、役職員一丸となって取り組みました結果、業容面におきましては、預金は、対前年度比で期末残高が2.3%増加、期中平均残高は1.9%増加いたしました。一方、貸出金は、対前年度比で期末残高が2.1%増加、期中平均残高は0.8%増加いたしました。損益面におきまして、今期の業務純益は22億3千万円、当期純利益は15億1千万円を確保することが出来ました。リスク管理債権の状況におきましては、令和2年3月末日現在で、貸出金に占める割合は4.2%となっております。しかし、そのほぼ全額を貸倒引当金あるいは担保等でカバーしており、信用リスクは極めて低い状態であります。自己資本比率も18.99%と国内基準の4%を大きく上回る水準であり、安全性を確固なものにしており、当金庫の資産内容は高い健全性を維持しております。

経営の基盤拡大と経営体質の強化を経営の基本とし、

合理化、効率化をはかりつつ役職員が懸命に努力しました結果、厳しい環境下ではありましたが、引き続き安定した業績を収めることが出来ました。

令和2年度については、当初の政府の経済見通しによれば、積極的な経済対策の効果もあいまって、雇用・所得環境の改善が続き、内需を中心とした景気回復が見込まれるとされていきました。しかし、新型コロナウイルス感染症の拡大による世界経済の急減速により、今後の景気動向は極めて不透明な状況となっています。地域経済の状況は、人口減少・高齢化、事業所数減少の傾向が続くなか、新型コロナウイルスの影響も加わり更に厳しいものとなり、地域の持続的な発展に向けて地域金融機関の発揮すべき役割は大きなものとなっております。

令和2年度は当金庫の3カ年計画「**にっしん**中期経営計画2018」（地域と共に成長する金融機関を目指して）の最終年度となります。3年間の締め括りとするとともに、10年後の金庫の姿を見据えて、金庫の経営理念とも目的を共有する「SDGs（持続可能な開発目標）」の取組みを推進してまいります。

また、安定成長の基盤として6年ぶりとなる新店舗の出店を成功させるとともに、「お客様第一主義」の方針のもと地域社会の持続的な発展に貢献するために、「人財力・組織力の強化」を図り、MMSによるメイン化推進を基本としつつ、多様化する顧客ニーズに対応する新しい時代の「最良の金融サービス」の具現化に取り組みます。つきましては、当金庫の独自性・特性をさらに磨き、現場力を存分に発揮するために、役職員一丸となって目標に向かい邁進してまいります。当金庫と会員、地域の皆様との絆を一層深め、最良の金融サービスを提供することにより地域社会の持続的な発展に貢献するとともに、当金庫が安定成長軌道に乗るよう、役職員一丸となって尽力し精進を重ねる所存でございます。

今後とも何卒、倍旧のご支援ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

令和2年7月

理事長 **志水 宣之**